

# 身近な地質スポット

## 静岡県浜松市中田島町／「中田島砂丘」

今回は、遠州灘の海岸線に4kmほど続く、「中田島砂丘」の紹介です。

中田島砂丘は、「浜岡砂丘」「千浜砂丘」などとまとめて、遠州大砂丘と呼ばれています。長野県の諏訪湖から流れる天竜川によって運ばれてくる砂が、遠州灘海岸に堆積し、冬期の西風によって形成された、幅0.6kmほどの砂丘です。

この砂丘では、強風によって砂上に「風紋」と呼ばれる美しい模様も見られます。また砂丘にはウミガメの卵の保護施設（ゲージ）があります。産卵した卵が回収、保護されており、一般客も外から観察することが可能です。ここで孵化した赤ちゃんは、毎年8月中旬から9月下旬に海に帰されます。

近年、砂浜の浸食とともに砂丘の面積が減少しつつあり、地盤高の低下も顕著になっています。また、天竜川の上流にダムが建設され、運ばれてくる砂の量が減少したり、波によって浸食される砂の量との均衡（つまり需要と供給のバランス）が崩れたりして、海岸線が年間5mほど後退し続けています。

この浸食により、ここ30年間で180mも海岸線が後退し、2003年9月には砂丘に埋め立てられていたゴミ（1972～1980年旧浜松市家庭ゴミ約13万ton）がむき出しになり、緊急処置がほどこされることとなりました。

このような状況を受け、浜松市では、防風林まで移動した砂を浸食の激しい場所に戻すなどの移動工事や、砂の流出を防ぎ堆砂を促す堆砂垣の設置工事などを行い、砂丘の保護に尽力しています。

この中田島砂丘では、風と砂のおりなす芸術、生命の営み、砂丘の先に広がる太平洋の水平線から昇る朝日、沈む夕日を見ることができます。未来の人たちにも見せてあげたいと思います。



写真-1 中田島砂丘の風景



写真-2 風紋

### 「風紋」

砂紋のうち、風によって地表に形成されるもの。

砂の粒径が均一で、サラサラと心地よい。地表面は乾燥しているが少し掘ると湿った砂が表れる。

砂漠と違い、歩いてもさほど足を取られる感触はなかった。

余談ですが、

この地質スポットの近くにはこんなお店がありました。

## 土蔵 (どら)



浜松市街より国道1号を南下。  
「大柳西」交差点を右折、すぐの交差点を右折、左側にあります。  
田園のなかぽつりとたたずむ感じ。

場 所: 静岡県浜松市南区大柳町70-3

営業時間: 日~木 / 11:00~21:30 金・土 / 11:00~22:00

定休日: 月曜日が祝日の場合は翌日休み

醤油、ゆず塩、味噌、担々麺、つけ麺のほか、西安飲茶が絶品とか、自然素材にこだわり、丹念に作られた白濁させないスープが自慢。背脂ちゃっちゃ、でもしつこくなく、さらっと食べられます。



看板メニューの「やみつき醤油ラーメン」、ランチメニューで餃子or唐揚げとライスが付いて940円。  
味噌、塩、担々麺、ゆず、梅じそと種類も豊富。